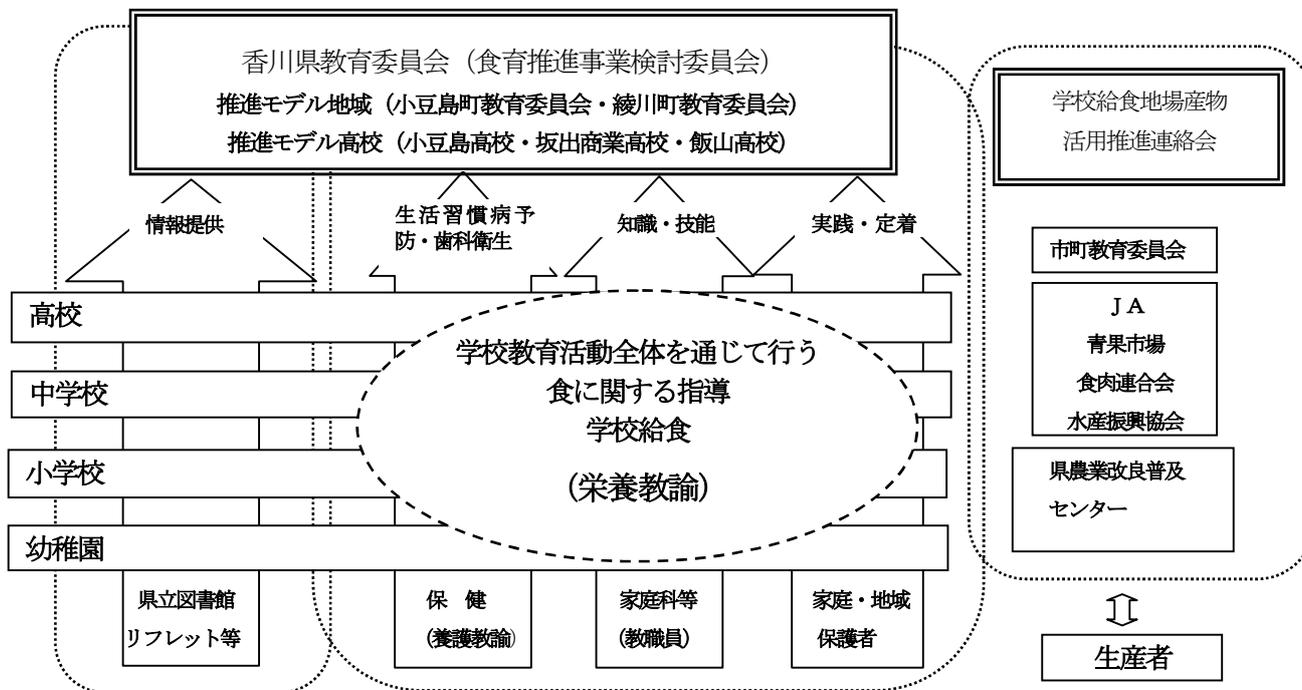


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	香川県
推進地域名	小豆島町、綾川町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 事業内容

テーマ1	子どもの発達段階に応じた食育の推進（幼児期から高校までの食育推進）
<p>(1)食育推進モデル地域の実践取組及び発表会の開催 食育推進モデル地域（高校も含む）の取組内容や成果を県内全域に普及させるため、12月27日開催の「香川の教育づくり発表会」において、実践発表を行った。</p> <p>(2)発達段階に応じた食に関する指導教材の作成、普及 食育推進モデル地域で開発する地場産物（県花・県木のオリーブ）を活用した指導教材の作成、香川県教育委員会HPへの掲載を行った。</p> <p>(3)食育推進フォーラムの開催 運動部活動に取り組む児童生徒の保護者や栄養教諭などを対象に、講師に公認スポーツ栄養士 海老久美子氏を迎えて、家庭に向けた普及啓発のためのフォーラムを11月3日に開催した。</p> <p>(4)幼稚園及び高校における食育推進講師派遣事業 幼稚園（22園）や高校（17回）へ栄養教諭や食文化博士、スポーツ栄養士などの専門家を派遣し、園児・児童生徒及び保護者などに対して食に関する指導を行った。</p> <p>(5)高校生の食生活実態把握及び高校での食に関する指導の充実 高校生の食生活を改善するため、モデル校（坂出商業高校、飯山高校）において実態把握をするとともに、栄養教諭などが協力しながら、実践的な取組を行うなど、学校教育活動全体を通じた食育を推進した。</p> <p>(6)食育推進事業情報提供事業 県立図書館の子育て支援・ヤングジェネレーションコーナー（中・高校生向け）等を利用して、6月9日～9月9日の間、パネルや図書を展示するとともに、6月17日親子を対象とした食育のおはなし会などを実施して情報提供を行った。</p>	

## テーマ2

### 学校給食における地場産物の活用推進

#### (1)学校給食における地場産物の活用推進

学校給食における地場産物の活用状況調査を本県独自で全ての市町を対象に食材数ベースで毎日カウントし、毎月集計している。

各市町学校給食地場産物活用担当者や流通業者等を集め、学校給食地場産物活用連絡会を開催（2月14日）し、各市町の抱える地場産物活用の問題等について協議、検討し、課題解決を図った。

#### (2)ふるさとの食再発見事業の実施

毎月19日の「食育の日」を含む5日間を「ふるさとの食再発見週間」とし、学校給食において、地場産物や郷土に伝わる料理を取り入れた給食を、県全域で実施した。

## テーマ3

### 食育推進体制の充実

#### (1)食育推進検討委員会の開催

第1回（6月27日） 推進地域等における事業計画等について、発達段階に応じた食に関する指導取組項目の設定について

第2回（10月30日） 発達段階に応じた食に関する指導取組項目に関する意見について、中間報告

第3回（1月22日） 発達段階に応じた食に関する指導項目例の決定について、事業報告

#### (2)各市町における食育推進体制の充実

#### (3)栄養教諭・学校栄養職員、学校給食主任の資質の向上

研修会の開催（8月3日） 食に関する個別指導、家庭における食育、特別活動における食育取組など

## テーマ1ー(6)

### 高校生の食生活実態把握及び高校での食に関する指導の充実

#### 坂出商業高校での取組

##### (1)食育推進委員会の開催

校内食育推進委員会（第1回：7月9日、第2回：11月21日）

##### (2)食育講演会の開催

①保護者に対する栄養講座「家庭における健全な食生活」（5月12日）

講師 香川県中讃保健福祉事務所 副主幹 田井 妙子 氏

②運動部員に対する栄養講座「スポーツ選手の栄養管理について」（7月5日）

講師 四国医療専門学校 鍼灸学科主任 小泉 博幸 氏（公認スポーツ栄養士）

③食育講演会「考えて食べたい昼食 ～お弁当に外食 そのポイントは？～」(9月12日)

講師 中国学園大学 現代生活学部人間栄養学科 准教授 村上 淳 氏

##### (3)家庭科における実践

①調理実習を利用してのお弁当づくり（5月と6月に2年生全員を対象）

②出前講義「高校生の食育」（2年生2クラス対象）（7月11日）

講師 香川短期大学名誉学長 北川 博敏 氏

③食育講座「坂出が誇るびっぴ飯を作ろう」を開催（7月13日）

講師 家庭クラブ代議員の生徒2名

④お弁当コンテスト「お弁当作りに挑戦（2年生の夏休みの課題）」を実施（9月に投票によるコンテスト）

⑤地産地消の食材を使っでの調理実習（11月に2年生全員対象）

⑥食育講座「野菜たっぷり『しっぽくうどん』を作ろう」を開催（11月30日）

##### (4)商業科「課題研究」の活用～商業科における食ビジネスに関する調査・研究および商品開発～

①商業科3年選択者による「食生活の現状とその課題」に関する調査研究（9月～1月）

②出張講義「食事と生活習慣病の関連性について」（10月23日） 講師 香川短期大学名誉学長 北川 博敏 氏

③フィールドワーク 上田うどん（丸亀市飯山町）と川向製菓（善通寺市善通寺）にて現地研修（11月24日）

④課題研究の調査・研究のまとめ方について指導（12月18日） 講師 四国新聞社記者 亀山 愛 氏



保護者に対する栄養講座



お弁当コンテスト

- ⑤「かがわの高校生ビジネスアイデアコンテスト」での発表（1月12日）
- (5)食に関するアンケート調査を2回実施  
保護者対象（5月と11月）、全校生徒対象（6月と11月）
- (6)食育だより等の発行
  - ①食育だより発行（6月、7月、9月、10月、11月、1月）
  - ②アンケート結果や食育関連記事を生徒保護者に配付
  - ③食育だよりを含む食育に関する取組の学校ホームページ上での公開

### 飯山高校での取組

#### (1)食育推進委員会の開催

- ①推進体制の整備と食育推進事業の取組計画の検討
- ②生徒の実態調査（事前アンケートの実施）【4月24日】  
（事後アンケートの実施）【12月4日】
- ③文化祭での活動報告【9月7日、8日】
- ④家庭クラブ活動報告（事後アンケート結果報告、糖度検査結果）【2月】



食育講演会「竹下和男氏」

#### (2) 食育講演会（及び栄養指導）の開催

- ①2年生を対象とした「拒食・過食の弊害」、「スポーツ選手の食事」【5月15日】大塚製薬 藤田 順久氏
- ②3年生を対象とした「一人暮らしの食事」【5月29日】【10月9日】大塚製薬 藤田 順久氏  
同上2回目【10月9日】丸亀市立綾歌中学校 栄養教諭 村井 栄子氏
- ③保護者を対象とした「単立つ世代の食生活の現状と課題」【5月21日】オフィス弁当の日 竹下 和男氏

#### (3)学校歯科医における栄養指導

- ①1年生を対象とした「考えようお口の健康」【6月5日】学校医 川西 一弘医院長

#### (4)家庭科における実践

##### 料理講習会

- ①一人暮らし向けの料理講習会【5月15日、16日】キッス調理師専門学校 丸山 城司氏
  - ②野菜を使ったお菓子づくり講習会【6月5日、12日】イワクラコンフェクト 岩倉 完司氏
  - ③乳製品を利用した料理講習会【11月30日】キッス調理師専門学校 丸山 城司氏
  - ④一人暮らし向けのレシピ集の作成、調理実習【6月5日、6日】
  - ⑤一人暮らしレシピ作成、試作品作り、【6月5日、6日】レシピ作成【11月】製本【1月】配布【3月】
  - ⑥一人暮らし向けの料理講習会第1回【12月12日、18日】2回【12月12日、18日】家庭科教員
  - ⑦食文化博士による「郷土の食文化について」【5月17日、18日】食文化博士 池内 靖子氏
  - ⑧家庭クラブ役員への料理講習会 第1回【5月24日】、第2回【7月3日】、第3回【10月19日】家庭科教員  
栄養指導
  - ①家庭クラブ役員への栄養指導【5月2日】保健体育課 西森 千鶴氏
  - ②食品文化系列選択者への栄養指導【5月8日2回、9日、11日】健康福祉課 田井 妙子氏
- ##### 研究活動
- ①学校設置自動販売機のジュース類の「糖度検査」【1月9日】

## テーマ1～3に共通する具体的計画

### ○モデル推進高校におけるアンケートの実施

#### (坂出商業高校) 保護者・生徒のアンケート結果

- ・90%近くの生徒が弁当を持参している。小中学校までの給食と異なり、その献立や栄養バランスを考えることが大切であるが、初回のアンケート調査からは生徒自身の意識はまだ高いものではない。
- ・多くの生徒が昼食と夕食の間で部活動などのために、間食を取ることも少なくない。
- ・80%近くの生徒が朝食を取るが、家族全員で食べるのは10%、一人で食べるのは40%程度である。夕食においては約70%が家族全員または誰かと一緒に夕食を取ってはいるが、30%は一人で食べている。

**【飯山高校】事前アンケート結果（全校生 571 名）【事後アンケート結果（全校生 535 名）】比較**

- ・朝食欠食率（ほとんど食べていない）は全体で8%【8%】、男子15%【16%】、女子6%【5%】と男子の欠食率が高い。
- ・朝食を食べない一番多い理由として全体、男女別とも「時間がない」である。次いで「食欲がない」「いつも食べないから」となっている。
- ・食事に対する意識の低い生徒は、空腹がしのげればお菓子や菓子パンとジュースの組み合わせである。食事時間も不規則でお腹が空けば何かを食べているようである。夏場のジュースの摂取量が多い。

平成 23 年度学校保健統計調査によると肥満傾向児の出現率は改善傾向にあるものの、依然全国平均より高い傾向にあり、特に 15・16 歳で顕著である。また、むし歯のある子どもの割合は幼稚園以外は全国平均よりも高く、歯肉の状態も専門医の診断が必要な者の割合が、特に高校生男子において全国平均を大きく上回っている。

子どもに対する食育は、家庭が重要な役割を担ってきていることから、家庭を中心としつつ、学校を通じた積極的な取組が必要である。

**○発達段階に応じた食に関する指導項目例の設定**

小中学校における食に関する指導の取組目標の表に加えて、幼稚園や高校における取組や香川県独自の課題に応じた重点的な取組（歯の健康、調理ができる実践力）などの項目の追加を検討する。

## 本事業における評価指標と考察

- ① 香川県全域 地場産物活用率 33.5%（平成24年2月末）→33.6%（平成25年2月末）  
最終目標35%（平成27年度末）

② 坂出商業高校

アンケート結果の比較（第1回→第2回）

○保護者 「子どもの栄養や食事で心配なことは何か。」：「栄養バランス」36.1%→41.1%（5%上昇）

「子どもの栄養以外で食事に関することで意識していることは何か。」（複数回答）：

「食事の家族での会話」15.3%→16.2%

○生徒 「食事で意識していることは何か。」：「野菜を多く食べる」28.1%→35.0%（6.9%上昇）

「夕食を誰と食べることが多いですか。」：

「家族全員」23.1%→24.2%、「家族の誰か」47.2%→48.5%、「一人で」29.1%→26.5%

今回の取組の中で、講演や弁当づくりの実習、さらには食育だよりなどの発行を通して、保護者の食事の栄養バランスに対する意識が高くなり、生徒自身も野菜を多く食べることを意識するようになってきている。一方、今回の本校の取組は栄養面に偏ったことから、食事についてのその他の側面から、例えば、家族との食事や、食事の楽しみ方などの取組が行えなかった。それがアンケート結果にも表れ、このような項目に関連した問いへの回答は大きく変化しなかった。

③ 飯山高校 事前アンケート結果（全校生 571 名）【事後アンケート結果（全校生 535 名）】比較

- ・朝食欠食率（ほとんど食べていない）は全体で8%【8%】、男子15%【16%】、女子6%【5%】事前、事後とほぼ同数値の結果となり、やはり男子の欠食率が高い。朝食を食べない一番多い理由として全体、男女別とも「時間がない」である。事後のアンケートが冬のため寝坊等時間がないことも原因と考えられる。

## 本事業の成果

### 香川県全域

- モデル推進高校におけるアンケートにより、実態把握ができ、課題となっている理由が確認できた。
- モデル推進地域・高校の取組などの課題や成果を踏まえ、発達段階に応じた食に関する指導を幼稚園から高校まで継続し一貫して行うため、食育推進検討委員会において本県の実態を踏まえた食に関する指導項目例の内容を検討した結果、次年度学校に示すことが可能となった。
- また、これを活用した実践的な取組例や成果などを県内全域に啓発することにより、市町教育委員会や高校は、子どもの実態に応じた指導項目を検討して計画的に食育の取組を実践することが可能となる。さらに、学校における食育の全体計画のねらいや具体的な内容を家庭や地域に説明し、理解や協力を得ることができる。

### 坂出商業高校

- 食育講演会によって、保護者・生徒は栄養バランスの大切さについて認識を新たにした。小中学校とは異なる昼食（お弁当）のあり方について、自分の体や運動量に応じた弁当箱の選び方、また望ましい弁当箱の中身の種類や配分など、具体的な話で生徒はよく理解ができ、毎日の食事について考え、食育が極めて身近で大切であることが認識できた。
- 家庭科での実践においては、限られた時間だが、講演会で学んだ栄養と色のバランスのよいお弁当作りにチャレンジした。また、地元の食材を利用した献立作りと調理で、地産地消を意識した食の実践を行った。知識だけの理解に留まらず、実践できるようになった。
- 商業科専門科目の課題研究で「食育」を設定して学習することで、食事や栄養面に興味・関心が高くなり、栄養面を意識した商品開発や販売戦略を立案・計画した。
- 今回の取組の開始にあたり保護者・生徒にアンケートを行うことで「食」に関する意識を把握することができた。また、「食育だより」の発行により、結果を家庭に還元でき、本事業の意義を理解してもらい一助になっている。
- 2回のアンケート結果から、上記の様々な取組を通じて、食事における栄養バランスの大切さが理解され、保護者・生徒ともに普段の食事において、栄養バランスに対する意識が高くなってきた。

### 飯山高校

- 高校生の実態を踏まえ、野菜や乳製品を多く取り入れた一人でもできる簡単調理など積極的に実習ができた。
- 食に対する意識の低い生徒もおり、空腹をしのげる食べ物であれば栄養やバランス等あまり考えない生徒もいる。香川県の実態や本高のアンケート結果から見られる現状等を伝え、今の食生活が自分の将来の健康につながっていくことを講演会や栄養指導等で全校生徒に伝えた。
- 食品文化系列の生徒や家庭クラブ役員等には、より具体的な現状や食生活改善の方法、簡単にできる調理などを講演会・講習会を通して学習し、推進活動のリーダーとしての自覚を向上させた。
- 事前アンケート結果（全校生 571 名）と【事後アンケート結果（全校生 535 名）】との比較
  - ・朝食の欠食率については上記に記述
  - ・「牛乳・乳製品をほとんど食べない」生徒が 41%【33%】、以前として多く、学校給食がなくなり本人の嗜好に任されると「嫌いではない」が、あまり飲まなくなるようである。
  - ・野菜の摂取については、事前と事後のアンケート調査の内容に変更があったが、「一日両手に山盛り」【7%】、「片手一杯」【47%】、「片手半分」【27%】、「あまり食べない」【17%】、と食に興味のある生徒も含め野菜不足傾向の生徒がほとんどであった。
  - ・本事業を行うことでの変化についてのアンケート調査では、「食への興味・関心が高まった」【56%】、「野菜を食べるようになった」【40%】、「牛乳・乳製品を食べる機会が増えた」【29%】、「ジュースの砂糖の量を意識するようになった」【46%】、「栄養バランスを意識する」【56%】、「栄養表示を見るようになった」【39%】、など食に対して興味をもち、何を食べるかなど各自の食生活改善のための意識づけにつながったと考えられる。
- 一日の摂取目安量の野菜 350 g が取れているかの体験で、野菜 350 g はどのくらいかを体験させた際、「こんなに食べてない」と野菜不足を改めて認識できた。
- 自動販売機のジュース類の「糖度測定」を実施した際、1本の中に含まれる砂糖の量に驚いて、一日数本飲むと恐ろしい砂糖の量になると感想を述べていた。

## 今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

### 香川県全域

- 香川県では、食生活の実態を踏まえ、県独自の発達段階に応じた食に関する指導項目例の設定を行ったが、今後はこれを活用した実践的な取組を行い、事業の成果を確認しながら、表記については継続して検討をする必要がある。特に、高等学校学習指導要領が変更になっているが、各高校の学校教育活動全体における食育推進については、学校給食のない状況における生徒に対して、食に関する意識の向上をどのように図っていくのか、事業の成果を確認しながら検討をする必要がある。色々な教科における食育の時間を設定することが容易でない状況であり、まずは、各高校において食育推進体制の整備が重要である。
- 小中学校における食育は、栄養教諭の配置により充実が図られており、家庭に向けた食育の啓発にも取り組んでいるが、さらに調理ができる実践力などを培うため、保護者に対し、学校における実践的な取組を周知し理解や協力を得るとともに、より踏み込んだ家庭における食育への働きかけをする必要がある。
- 地場産物の活用については、課題解決のための連絡会の開催などにより、これまで活用率が上昇してきたが、今年度は横ばい状況となってきている。このため、関係機関の協力を得て、学校給食実施者と生産者とのコーディネーターを確保するなど、地場産物の活用をより一層推進する必要がある。

### 坂出商業高校

- アンケートより「夕食を誰と食べることが多いですか。」という問いに対して、2回のアンケート調査で、いずれも「家族全員」約23%と少なく、「家族の誰か」が約50%、「一人で」というのも約30%となっている。また、「栄養以外で食事に関することで意識していること」で「食事の家族での会話」をあげる保護者は約15%前後と少なく、ほとんど変化がない。このことから、食と栄養についての知識の理解とその実践においては改善がみられたが、「家族で食事する」とか、「会話をしながら食事をする」など、食事の場の環境からの側面での取組が望まれる。

### 飯山高校

- 現在の食事内容や栄養摂取状況が、将来の自分の体や次世代への生命に繋がっていることを知らせる必要がある。自分の食生活の問題点や改善点に気づき、食に対する意識を向上させる必要がある。
- 生徒一人一人の食生活の自立に向けての推進活動として、旬の食材をできるだけ簡単な調理法で料理し、食事として食べることができれば、生活環境に関わらず自立できるのではないかと考える。授業や家庭クラブ活動を通して推進したい。
- 事後アンケート結果の「今の食生活に問題を感じている」【28%】、その中でも具体的な内容としては、朝食を取っていない、野菜不足、栄養のバランス等の回答があり、本年度限りの研究に終わることなく継続的に啓発活動の必要性を感じた。